

技術・積算資料には下図のとおり発進立坑図を参考に掲載しておりますが、実際の立坑の設計検討では元押装置、先導体、推進管等の搬入を考慮し、可能な限り搬入空間を確保した切梁・腹起し配置としてください。

それでもなお施工時において切梁等の制約により、立坑搬入スペースが「元押装置の一体搬入必要寸法」※を確保できない場合は、それを分割し立坑内で組み立てて据付けることとなります。

※元押装置の一体搬入必要寸法

DL35N:長さ3,830mm×幅1,430mm

DL50N:長さ4,610mm×幅1,440mm

DL70N:長さ4,330mm×幅1,840mm

元押装置の一体
搬入必要寸法

1. 12 立坑

エースモール技術資料:P29抜粋
リバースエース技術資料:P24同じ

(1) 立坑寸法および装置配置

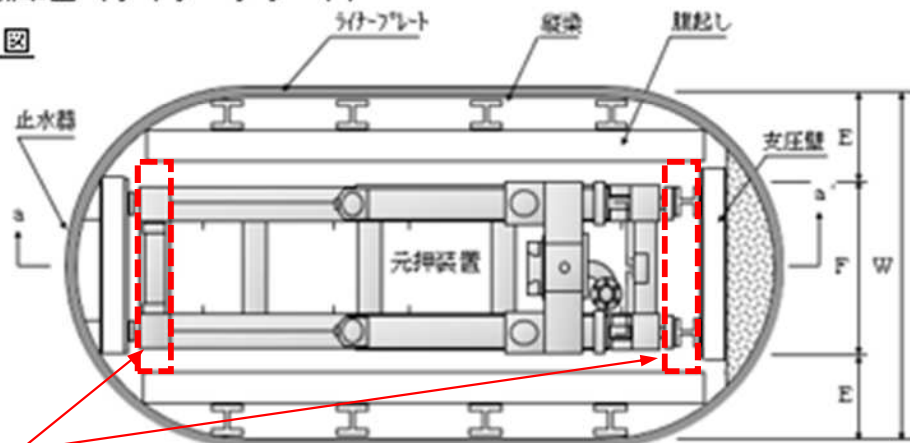
元押装置種別毎の標準的な立坑寸法と装置の配置例を図 1.12-1～3 および表 1.12-1～3 に、3.0C 元押装置の場合を図 1.12-4 および表 1.12-4 に示す。

なお、標準寸法は立坑深さ 6m 程度の推進に必要な最小寸法であり、施工の安全施設、マンホール等で上回る場合は、別途考慮する。

また、各図の土留材の位置、間隔等は参考であり、何ら制約するものではない。

① 発進立坑標準図（ライナープレート）

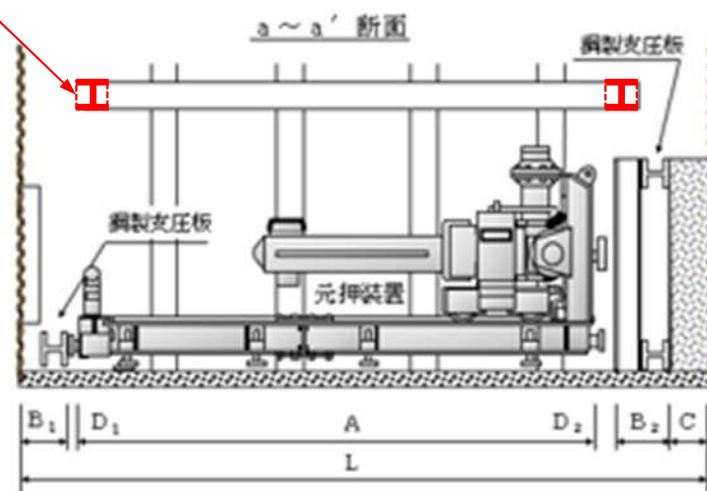
平面図



元押装置等の搬入を考慮した切梁位置

切梁

断面図



- L : 立坑長
- W : 立坑幅
- A : 元押装置長
- B₁ : 鋼製支圧板
- B₂ : 鋼製支圧板
- C : 支圧壁
- D₁ : ジャッキ幅
- D₂ : ジャッキ幅
- E : 作業幅
- F : 元押装置幅

図 1.12-1 発進立坑（ライナープレートの場合）